

5万分の1地質図および地域地質研究報告書

「鳥海山及び吹浦」が完成

東北の名山、鳥海山の地質図幅が刊行されました。著者は、地質部中野 俊・土谷信之の両氏です。

鳥海山は秋田・山形県境の日本海岸にあり、標高2,236mを有し、福島県の躑ヶ岳に次ぐ東北第2の高峰です。この地質図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「鳥海山」と「吹浦」の2枚合わせた範囲を1枚にまとめて印刷されています。従来の図幅より大型版となっており、2枚の図面をまとめたことにより鳥海山全域をカバーし、見やすい地質図となっています。

鳥海山および吹浦地域は、東北日本背弧地域に属し、いわゆるグリーンタフ火山活動の地域にも当たっており、また油田堆積盆の中に位置しております。この地域は、断続的に続いた火山噴出物と砂岩・泥岩からなる層が厚く堆積しています。これらの地層は鳥海山図幅地域の東半部(出羽丘陵)に広く分布し、青沢層・女川層・草薙層・百宅火山岩などに区分されています。

鳥海山は活火山で、その火山活動は約50万年前までさかのぼることが出来ます。火山活動は全体で3つのステージに分けられています。いずれも安山岩溶岩の流出を主体とした活動です。ステージⅠは、古期成層火山の活動期で、中心噴火による円錐形の火山体が形成されましたが、今ではその大部分は新しい噴出物に覆われてしまっています。ステージⅡは、鳥ノ海や鍋森を取り囲む西鳥海馬蹄形カルデラ付近を中心とした、「西鳥海」の活動期です。ステージⅢは、新山や荒神ヶ岳を囲む東鳥海馬蹄形

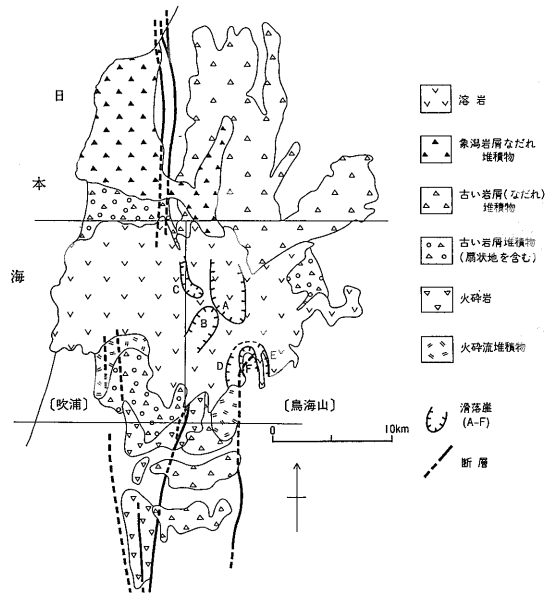


図 鳥海火山にみられるカルデラおよび崩落地形と山麓の岩屑堆積物の分布

カルデラを中心とした「東鳥海」の活動期で、現在の山頂付近を中心とした溶岩の流出が繰り返されました。その後、東鳥海馬蹄形カルデラが形成され、それ以降の活動はすべてこのカルデラ内で起こっています。

鳥海山は有史時代に多くの噴火を記録しています。最近では1974年に噴火しており、鳥海山の最高峰である新山は1802年に形成された溶岩ドームです。山頂部の北に開いた東鳥海馬蹄形カルデラは2800年前の山体破壊の跡で、松尾芭蕉の句で有名な象潟の九十九島はこのときの崩れた山体の一部です。カルデラ内を埋める溶岩流や山腹を流れ下る溶岩流、火山体を切る活断層なども地質図には表されています。また、地域地質研究報告(説明書)には、鳥海山の有史時代の噴火記録などについても詳しく記載されており、鳥海山の成立ちを理解するためのよい参考資料となっています。地質図を持った登山も楽しいものです。

この鳥海山の地質図は、説明書とともに一部3500円(税)東京地学協会(03-3261-0809)、(株)地学情報サービス(0298-56-0561)で販売されています。全国主要書店で注文することもできます。地質図類に関する問い合わせは地質調査所地質情報センター(0298-54-3606)へ。(T)

I GEOLIS(日本地質文献データベース) 1991年版フロッピーディスク公開のお知らせ

地質調査所が1986年より構築しております上記データベースを、フロッピーディスクにより無償配布いたします。バックナンバーについても同様の要領でお申込下さい。

記

期間：1993年5月末日まで
データ内容：日本地質文献目録(1986-91年)
約44,000論文
申込方法：地質ニュース1993年2月号31頁
もしくは3月号65頁参照

II 地質文献目録1983, 1984年版フロッピー ディスク公開のお知らせ

1983, 1984年版が完成いたしましたので、上記同様の方法でお申込下さい。ただし、フロッピーディスクは1年分につき1枚となります。

申込先：〒305 つくば市東1-1-3
地質調査所 地質情報センター
資料情報課
問い合わせ先：資料情報課(担当 中沢)
TEL. 0298-54-3604
参考：地質ニュース420号(1989年8月号)

第4回(1993年度)地質調査所研究講演会

惑星地質とリモートセンシング

■日時/1993年6月16日(水) 11:00-17:00

■場所/三会堂ビル9F 石垣記念ホール

東京都港区赤坂1-19-13

■主催/工業技術院地質調査所

(財)日本産業技術振興協会

協賛：(財)資源観測解析センター、(財)資源探査用観測システム研究開発機構、(財)宇宙環境利用推進センター

●開催に当って：国産ロケットを用いた人工衛星打ち上げやスペースシャトルの日本人クルー、そして月や火星への惑星探査計画など、わが国の宇宙開発もいよいよ本格的な段階にはいった。地質調査所でも、地球について得たこれまでの研究実績を活かして、近い将来にわが国の宇宙探査船がもたらす惑星・衛星の地質学的データを取り扱っていききたい。ここでは、惑星・衛星の地質学研究の手法とこれまで得られた結果、そして現在の日本の宇宙計画と今後の展望などについて考える。

●参加費：無料 ●資料代 2,600円

●申込先：(財)日本産業技術振興協会

〒105 東京都港区虎の門1-19-5 虎の門1丁目森ビル
5F TEL. 03(3591)6272 FAX. 03(3592)1368

●申込方法/参加申込書に参加者の氏名・所属等をご記入の上、申込先へお送り下さい。FAXでの申込みもお受け致します。なお、聴講券は発行しませんので、申込済みの方は当日会場へ直接おい下さい。

●問合せ先：工業技術院地質調査所総務部業務課広報係
〒305 茨城県つくば市東1-1-3 TEL. 0298(54)3520

プログラム

10:30-11:00 開場
11:00-11:10 あいさつ
(財)日本産業技術振興協会 専務理事
地質調査所 所長
11:10-12:00 [特別講演] 日本の惑星探査計画の現状と将来
文部省宇宙化学研究所惑星研究系教授 水谷 仁
12:00-13:00 昼食・休憩
13:00-13:50 [特別講演] 宇宙資源—地球外惑星における水の存在とその意義
名古屋大学理学部教授 田中 剛
13:50-14:40 地球と惑星のリモートセンシング
国際協力室国際地質課主任研究官 山口 靖
14:40-14:50 休憩
14:50-15:35 同位体から見た太陽系年代史
地殻化学部同位体地学課研究員 平田 岳史
15:35-16:20 リモートセンシングによる惑星地質学
地質情報センター情報解析課主任研究官 中野 司
16:20-16:50 討論
16:50-17:00 閉会のあいさつ 地質調査所 次長